

鉢物リンドウ新品種「ももずきんちゃん」の育成

中里 崇・川村浩美*

(岩手県農業研究センター・*岩手県中央農業改良普及センター)

Breeding of New Potted Gentian Cultivar 'Momozukinchan'

Takashi NAKASATO and Hiromi KAWAMURA*

(Iwate Agricultural Research Center, *Iwate Chuo Agricultural Development and Extension Center)

1 はじめに

岩手県では、鉢物リンドウ品種として栄養繁殖性品種「ももこりん」、「あおこりん」と種子繁殖性品種「いわて乙女」の3品種を育成してきたが、生産者からは更なる品種の拡大が望まれている。

岩手県農業研究センターでは1999年から交雑育種による品種育成に取り組み、栄養繁殖性の鉢物リンドウ品種「ももずきんちゃん」を育成した。ここでは、その育成経過や品種特性について報告する。

2 育成経過

(1) 育成経過

1999年に岩手県農業研究センター圃場において、ササリンドウ系統とエゾリンドウ系統の交雑系統を母、ササリンドウ系統を父として交配し、得られた交雑個体の選抜を2000年～2003年まで実施した。2005年から鉢花としての特性調査および適性評価を開始し、2008年に特性の安定性と鉢花適性を確認して育成を完了した。現在、品種登録出願中(第23965号)であり、品種名称は商標登録(登録第5339591号)している。

3 特性の概要

当年挿し木苗利用で1回摘心栽培時の特性は以下のとおりである。

(1) 開花期

育成地(岩手県北上市)付近では、採穂用親株の施設内無加温管理で8月下旬開花、露地管理で9月下旬開花となる(表1)。本県の既存栄養繁殖性品種は需要期出荷(9月)のために採穂用親株の加温管理が必要であるが、新育成品種「ももずきんちゃん」は必要としない。

(2) 花色

花色は花冠内面上部が明赤味紫(桃色)、花冠外面が赤味紫であり、花冠外面の着色が極少ないことから、明瞭な桃色を呈する(表2、図1)。

(3) 草姿

草姿は立性で総花数が40程度となる(表2、図2)。茎径は2mm程度とやや細めで、一次側枝は7～8本発生する(表2、図2)。岩手県内産地の事例から、摘心回数を2回にすることにより、ボリュームが確保される。

(4) 開花性

気温が17℃程度あれば、弱光下でも花冠先端が外反転する(表3)。

(5) 葉枯れ病の発生程度

岩手県農業研究センター圃場および県内産地(北上市)での栽培試験結果から、葉枯れ病の発生は県既存品種「ももこりん」、「あおこりん」と比較して、同等～やや少ない。

4 まとめ

花色が明瞭な桃色である、採穂用親株の加温管理が不要であるため低コストで苗生産ができる、室内等の弱光下でも花冠先端が外反転する、葉枯れ病の発生が既存品種と比較して同等～やや少ない等の特性を持つ「ももずきんちゃん」は鉢物リンドウ品種として有望と考えられる。

表 1 「ももずきんちゃん」の親株入室、親株加温開始、挿し木および開花の時期

品種名	親株入室時期	親株加温開始時期 (月/日)	挿し木時期 (月/日)	開花期	年次
ももずきんちゃん	12月下旬	1/15	3/1	8月4半旬	H17
〃	12月下旬	— ²⁾	3/25	8月6半旬	H20
〃	— ¹⁾	— ¹⁾	5/7	9月5～6半旬	H20
ももこりん	—	1/21	3/25	9月3半旬	H9

1) 露地管理

2) 無加温管理

表 2 「ももずきんちゃん」の特性

品種名	花冠の色 ¹⁾		花冠外面の 着色程度 ²⁾	草姿	草丈 (cm)	総花数	花段数 (段)	茎径 (mm)	一次側枝数 ³⁾ (本)	花冠先端 の展開
	内面上部	外面								
ももずきんちゃん	明赤味紫 (No8905)	赤味紫 (No8911)	微	立性	15.2	42.8	3.6	1.9	7.5	外反転
ももこりん (対照)	明赤味紫 (No8905)	浅紫 (No8603)	少	半立性	10.4	34.0	—	—	3.4	外反転

1) 日本園芸植物標準色票による

2) アントシアニンによる着色程度を甚>多>中>少>微の5段階で評価

3) 1回摘心した主茎から発生した側枝数

表 3 「ももずきんちゃん」の開花性

試験区	12℃	14℃	15℃	16℃	17℃
照明有	閉	半開	開	開	開
照明無	閉	閉	半開	半開	開

・花冠先端の状態が閉、半開(爪咲き)、開(外反転)の3段階で評価

・開葯前の株を供試(各区 n = 6)

・「開」状態の鉢を12℃一定の人工気象器へ入れ、16時間経過後の花冠先端の展開状態を調査。その後、14℃一定に気象器内温度を上昇させ、16時間経過後の花冠先端の展開状態を同様に調査。その後も順次温度を上昇させ、同様に調査。「照明有」は蛍光灯(昼白色、 $270\sim 310\mu\text{molm}^{-2}\text{s}^{-1}$)を常時点灯。



図 1 「ももずきんちゃん」の花冠外面の着色程度



図 2 「ももずきんちゃん」の草姿